蜘蛛採集の思ひ出

理學博士 福　井　玉　夫

東京市小石川區原町二七

〔昭和十一年五月三十日受領〕

私が蜘蛛に興味をもつやうになつたのはまだ中學生の頃で，自ら蜘蛛男等と名をつけて喜んで居た事もあります。途中で家が不如意になつて洋服屋の小僧をして居た時には使に行つた時に蜘蛛を集めて來て暇な折に圖版のやうなものを描いて何枚かたまつた事もあります。何しろ何もわからぬ時代ではあり，蜘蛛の名前等調べる本もなかつたので勝手な名をつけて喜んで居ました。丸善で Bösenberg u. Strand の日本の蜘蛛の本を見付けて飛び上る程喜んだのでしたが，當時金十圓の本等は逆立したつて買へないので怨を呑んで引下りました。あんなに惜しい事はありませんでした。

後に又運よく學校へ入れるやうになつてからも時々蜘蛛の採集に出かけました。駒込の岩崎さんの邸の煉瓦塀に沿つて歩きながら丹念に採集して歩いた事もあり，日光へ植物採集に行つた時に集めた事もあり，井之頭へ集めに行つた事もあります。ハヘトリグモの類だけでもやつて見やうかと思つて集めかけた事もあります。文献を買集めて置く等と云ふ考も十分なく金もなく結局澤山の蜘蛛を殺しただけに過ぎなくなりました。切片を作るのに骨折つた事もありましたが，どうもうまく切れず中途半端に了りました。その中に岸田さんがどんどんおやりになつて居るのを知り今頃からやりだしてもとても追付かないと思つてやめてしまいましたが，今でも色氣がない限ではありません。其後蜘蛛と云ふ名のついた海蜘蛛をつついて見た事もありましたがこれもさつぱりものにならずまあ要するに方法がわるいのと熱心が足りないのとでどれもこれも無駄骨折でした。今度植村さん等の御盡力で此學會が出來た事は多少とも蜘蛛に關係をつけた私としては實に喜に不堪ないところです。